財團法人 協調會福岡出張所

頭山滿　外九通

皇道維盟顧問　文學博士　廳子木貞信

天皇機關說は一昨日政府の行政處分により一應の解決を見たのであるが、元々これは一美濃部學說のみでなく日本の學問思想、精神に深き反省と自覺を要する問題である。政府の處置如何に拘はらず毅然として問題の在するところを把握し將來を定むべき好機と信ずる。

機關とは獨乙のオルガンの譯で道具と言ふ意味である。道具は目的の變るに從ひ色々改變する事が出來又他の道具と取り替へる事も出來ると言ふ意味がある。この意味を天皇に比するのは不敬である。美濃部博士の研究方法は逐條憲法精義、或は憲法撮要の序文にあるが如く國體と天皇を切り離さんとする解釋であり、又憲法の解釋に當り其の第一要素となるも

財團法人 協調會福岡出張所

のは其の時々の事實の力により變遷推移する歷史的事實であると言ひ、又立憲主義は日本個有のものではなく西洋諸國と共通したものとなし去る二月の貴族院本會議にて機關說こそ國體に最も適すると信ずる諸々と辯明してゐるこの根本的思想の動機は支那の王道主義に基くものである。この思想に毒いた歐州の學說を一木博士に依り輸入されたので、美濃部博士は社會民主主義を以て憲法を解釋してゐる。而して國家主權說を强調する爲に憲法第一條の、、、大日本帝國、、、を國家でないとするは治安維持の對照となる國體變革を目的とするものである。これを今迄許してゐた事は國民全部にも罪がある。吾々は自ら省みると共にこの思想を撲滅せなければならぬ。

3、閉會の辭　　白石麗雄